

とりのお米」の美味しさが評価されたのか、次年度は SGS 内の注文販売で 400kg を楽に消化した。

小生が住むつつじが丘集会所に、かさ高いお米を一時保管する場所を確保し、神戸市内の各方面に点在する各戸に配送する人に集まってもらった。

豊岡からの到着時間を限定すると配達料金が高くなるので、運送原価を安くするために到着時間をフリーにしている。そのため集会所での待ち時間が出来るので会話が弾む。 配達の苦労は配達する人しか分からない。何度電話しても配達先が留守だったり、事前に電話しても急に外出されていたり、細かいお金のご用意がなかったり、数日マイカーが倉庫代わりになったり、女房殿からクレームがついたりする。

3 年目は一袋 5 キロ詰にして配達の効率を上げることにした。ワンカートンに 6 袋入れ 30 キロにして送られてきたが、大変に重く次年度は 5 袋 25 キロ詰めにしてもらうことにした。(最近ではなお過重でワンカートン 4 袋 20 キロ詰めにしているが、荷崩れを心配している)

利益の一部をコウノトリの餌代として「コウノトリ基金」に寄付を始めた。僅かな寄付金で何だか非常に良いことをしている様な気がしている。SGS のメンバーのお金が、「このとりのお米」の生産者に対する直接支援だけでなく、コウノトリを育む飼料代になって、さらに有効に働くことは喜ばしいことである。購入頂いた皆様に敬意を表する次第である。

2008 年はかねてより要望のあった玄米の販売を導入した。美味しい白米で口が肥えてしまったので、必ずしも需要が多くない様に見える。一体、栄養豊富で優れた美容効果があるとされる「玄米食」を何人の方が実行しているのであろうか？ 小生も玄米を注文しているが、保存用で白米が無くなったら近くの無人精米所に持ち込み精米している。無農薬なら安心・安全の「胚芽部分や糠層」を削り取って“天然の栄養成分”を棄てている。勿体ない気がする。

2009 年から「このとりのお米」の販売が SGS の事業となり、保田先生の唱える人と環境に優しい「環境創造型農業」が認知されたような思いであった。この間「このとりのお米」のファンとなってくれた皆様に心から感謝する。

この年に 5 キロ詰を 2500 円に引き下げ、かつ皆さんの販売努力が実り、一気に取扱量が 1 トンの大台に乗った。そして、昨年 2011 年には取扱量が 1.5 トンにさらに増加した。

県が進める「環境創造型農業」の方針に沿った“ひょうご安心ブランド”の一角である「このとりのお米」が消費者に理解されて来たことは大変喜ばしいことだ。

ご承知の通り豊岡のエコファーマーズでは、「このとりのお米」を現地では 5 キロ詰 3300 円、10 キロ詰 6100 円で販売している。したがって、我々の共同購入価格は大変格安になっている。



配送センターとなった「つつじが丘集会所」



配達する車に乗せ換えする

慣行栽培米と比べればなお高いが、利益を目的としない共同購入とは言うものの、マーケットプライスを無視して価格設定をしないことが望ましい。

われわれ SGS は生産者の努力を評価することが肝要で、「環境創造型農業」による生産物購入のファン作りが目的である。かつ流通業者の適正利潤を阻害してもいけない。

昨今、各地の産直市場で見られる年金生活者の農産物がコストを無視した安い価格設定で、農業で自立しようとする後継者が安値価格に太刀打ちできず農産物を持ち込めなくなっていると聞く。運送経費がかからず新鮮な農産物の販売の促進をした目的とした産直市場が後継者を駆逐するようでは本末転倒である。年金生活者が U ターンや J ターンして「環境創造型農業」に取り組む方も多いようだが、その農産物をマーケットプライス無視した価格で販売し“過ぎたる小遣い稼ぎ”に終始することは慎みたいものだ。



SGS のメンバーが中心となり神戸の各地域に「環境創造型農産物」の販売の核作り、拠点作りをしてもらいたい。市内の 3 か所ぐらいに拠点を作り、近隣の主婦を巻きこんで安全・安心な農産物の販売拠点を拡張していくのが、更なる夢である。

一昨年の東日本大震災によって発生した想定外の津波で福島原子力発電所の原子炉がメルトダウンし、大量の放射能漏れが生じた。福島県は関東地方のお米の大生産地であるが、放射能を被ったお米は出荷できなかつたため関東地方から関西のお米を大量に購入していった。先日聞いた話であるが「コウノトリのお米」は価格が上がり、入手が困難になったが、根岸健次さんの好意で我々に供給してくれたそうです。SGS が継続して購入してきたからではあるが、販売量がさらに増えればさらに喜ばれよう。

ひょうご安心ブランドの益々の普及を願うものである。

「こうのとりのお米」共同購入の推移

(4 期 鍋島 隆氏作製・根岸謙次氏確認)

	精米			玄米		合計	
	一袋詰	数量 (袋)	単価 (円)	数量 (袋)	単価 (円)	数量 (袋)	重量
2005 年	2kg	200	1200	取り扱わず		200	400kg
2006 年	2kg	200	1200	取り扱わず		200	400kg
2007 年	5kg	81	2700	取り扱わず		81	401kg
2008 年	5kg	96	2700	4	2700	100	500kg
2009 年	5kg	208	2500	0	2500	208	1040kg
2010 年	5kg	208	2500	35	2500	243	1215kg
2011 年	5kg	236	2500	70	2300	306	1530kg
2012 年	5kg	217	2500	81	2300	298	1490kg

- ① 2008 年までは、SGS 有志が共同購入を実施し、SGS の関係者に斡旋販売。収支残金 (余剰金) を豊岡市管理の「コウノトリ基金」に寄付した。
- ② 2009 年から SGS の事業として位置づけ、共同購入を実施する。余剰は兵庫県が管理する